

## 特集にあたって

コロナ禍において、誰しも生活スタイルの変更を余儀なくされている。在宅勤務やオンライン授業など、多くの人々が想定外の環境下で活動することとなり、自らを取り巻く環境への関心や不満は高まっているものと予想される。音環境についても例外ではなく、環境調査や心理評価の重要性も従来以上に高まっていくものと思われる。

一方で、このような調査・評価を価値の高いものにするには、基礎的な統計学や調査手法、評価手法、分析手法への理解が不可欠であり、これは実務者や初学者にとってハードルが高いものである。

そこで本特集では、音環境の調査手法や心理評価手法の〈超〉入門として、主として初学者を対象に、その概要や注意点を専門家の方々にわかりやすく概説いただくこととした。併せて、具体的な音環境を対象とした近年の調査・心理評価研究の事例を紹介していた（なお、保育施設等については前号「子どもと音環境」で特集していることから、本号では対象外とさせていただいた）。

このたび、著者各位には「〈超〉入門として」「初学者が「なるほど」と思えるよう」「手法や評価量の選び方、使い方、分析のポイント等についてわかりやすく」など、いろいろと面倒をお願いを申し上げた。ご配慮いただいた結果、どの稿においても大原則や心構え、注意点が多く挙げられており、痒い所に手が届く内容となっている。調査を企画段階から追体験できるようなものも多い。著者各位にはこの場を借りて心より感謝申し上げる次第である。

なお、入門的な内容をご執筆いただいていることもあり、著者同士で内容が重複する場合もあるが、編集担当者としては、異なる角度からの説明を複数得られるという点で望ましい面もあろうと考えている。

以下に各稿の概要を記す。

【1. 総論】「建築・都市環境における心理評価研究の動向」では、音環境以外の視点から、アンケート調査を中心とした心理評価研究の動向について幅広くご紹介いただいた。「音環境分野における心理評価研究の動向」では、音環境分野における研究動向を簡潔明快にご提示いただいた。「データのばらつきと検定」では、アンケート調査や心理評価実験の前提となる統計や検定の基本的な考え方について噛み砕いてご執筆いただいた。

【2. アンケート調査】「アンケート調査法概観」では、アンケート調査(社会調査)の方法や調査票の作り方、評価尺度や結果の報告、データの管理等について詳細に解説いただいた。「アンケート調査の設計とデータ分析」では、調査票の作成方法を中心に、調査の設計方法とデータの分析方法について解説いただいた。

【3. 心理評価実験】「心理学的測定法概観と利用上の注意点」では、心理学的測定法を広く概説いただくと共に、倫理規定などを含む様々な留意点についてご指摘いただいた。「SD法と因子分析による音環境評価」では、音のデザイン分野等でよく用いられるSD法と因子分析について概説いただくとともに、注意事項や参考情報をご紹介いただいた。「フィッシャーの実験計画法と分散分析、一対比較法」では、実験計画法の第一人者であるフィッシャーの方法論の概要とそれを踏まえた実験計画、さらには分散分析、一対比較法へと展開する流れについてご紹介いただいた。

【4. 音環境の調査事例】「リビングルームにおける床衝撃音の心理評価」では、床衝撃音の心理評価を行うにあたって考慮すべき項目について、背景となる心理モデルと共に実験事例を通してご紹介いただいた。「多群会話空間における音環境的快適性」では、居酒屋、カフェ、図書館という3種の多群会話空間におけるアンケート調査を取り上げ、課題の設定から調査の実施に至るまでの構想や具体化の過程について詳しくご紹介いただいた。「駅コンコースにおける音環境と案内放送の聞き取りにくさ」では、駅コンコースにおける環境騒音と音源の種類、旅客数との関係、聞き取りにくさとSN比、発話速度との関係に着目した研究事例をご紹介いただいた。「日本国内における交通騒音の曝露量と高度の睡眠妨害の反応率との関係」では、日本騒音制御工学会の分科会が取り纏めた社会調査データアーカイブのデータセットを基に、夜間の騒音曝露量と高度の睡眠妨害の発生率の関係を構築した例をご紹介いただいた。

本特集の企画にあたっては、茨城大学の辻村莊平先生に度々ご相談させていただいた。また、大阪大学名誉教授の桑野園子先生からもご助言いただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(編集担当 安田洋介(文責)、中澤真司)